

フォークソングの形態素解析

——関西フォークと一般フォークの比較——

棚田輝嘉・山内博之¹

1 はじめに

フォークソングとは何か。当事者・経験者・研究者などによって、すでに多くの発言がなされている。それらのほとんどは、歴史的な意義や歌われている思想や物語や生活などの内容について述べるという、いわば文学的なアプローチによるものである。しかしそのような方法だけでは論じきれない要素が、フォークソングにあるのではなかろうか。レコード会社専属の作詞家・作曲家・歌手というプロの分業制によって作られ歌われていた歌謡曲に対し、自作自演という方法で思想や信条・心情を聴き手に訴えるという、それまでとは異なる歌のあり方が、フォークソングであった。しかも担い手のほとんどは「若者」と呼ばれる人たちであった。「大人」を対象とした「大衆的な言葉」で書かれてきた歌謡曲に対して、フォークソングは「若者」に向かって語られた「限定された世代の言葉」だった。こうした要素を持つフォークソングを言語学的な側面から検討してみたいというのが、本稿の目的である。つまり、「読み」という文学的要素の分析ではなく、「語」を機械的に分析することによって、フォークソングという言語表現に何らかの特質があるのか／ないのかを検証してみたいのである。本研究は、これまでフォークソングを文化史的な方面から研究してきた棚田と、日本語の表現を言語学的な方面から分析研究してきた山内が共同で行うものであり、将来においては、演歌・アイドル歌謡等々の、様々な音楽ジャンルにおけるジャンルの特異性の有／無についても検討したいと考えているが、その最初の試みである。

2 方法について

山内は、その著書（山内・2009）²で言語分析の方法の一つとして、次のような作業を行っている。

示準化石という言葉をご存じですか。（中略）示準化石とは、もしその化石が見つければ、その地層がいつの時代のものかが自動的にわかるという、非常に便利な化石のことです。示準化石の代表格は、アンモナイトです。アンモナイトは、デボン紀に爆発的に個体数が増え、そして、白亜紀には完全に絶滅した貝類の一種です。個体数が非常に多く、かつ、生息時期が非常に限られていたため、もしアンモナイトの化石が見つければ、その地層がデボン紀～白亜紀のものだ、ということが確定するのです。

ここから山内は、日本語を母語としない日本語話者について、例えば「この形態素が発話されれば絶対に中級以上だ！ということがわかる、アンモナイトのような形態素」がないかどうかという検討を行う。そのために「茶釜」というソフトを使い、OPI データの分析を行った。具体的な内容については、山内の著書にあたっていただきたいが、例えば中級以上の話者の「アンモナイト形態素」として、連体詞の「あの」、フィラーの「あの」、接続助詞の「けど」を挙げている。つまり、これらを会話において用いている話者は、日本語能力において中級以上であると判定できるという事である。こうした形態素解析という方法を応用して、フォークソングが持っている「アンモナイト形態素」を見つけることはできないか、それがあれば極めてフォークソング的であると言えるような言語的要素があるか／ないか、を明らかにしたいのである。

これを棚田の側から述べれば、フォークソングがそれまでの歌謡曲と、作られ方も歌われ方も受容のされ方も違うならば、内容を文学的に分析するだけでなく、言語学的に分析することによっても、歌謡曲とは異なる独自の要素を見いだせる可能性があるのではないか。それによって、これまで経験的・直感的な印象批評によって論じられてきた内容の是非を、科学的に検証したいということである。

実際には、日本語という一つの言語体系の習得を目的とする日本語学習者の言語的特徴を分析するという作業と、すでに複雑な日本語を駆使し、個性を強調するような形で作られる日本人の「歌詞」とを、同等に扱うことはできない。

個性的なフォークシンガーたちによる個性的な歌が存在するだけで、特定の傾向などは見られないという結果になるかもしれない。しかしそうした結果もまた、重要な結果の一つであろう。あるいはまた、フォークソング単独の分析において十分な有意性を発見できないとしても、演歌・アイドル歌謡といった方面に、検討の範囲を広げることで、歌謡曲のジャンルにおけるジャンルの意味を、言語学的に分節化する事が出来るかもしれない、そうした将来における可能性を見据えて、本稿における歌詞分析を行ってみたい。

3 調査対象

調査対象の区分と選定の方法について述べておく。

まず、対象をフォークソングとする。フォークソングの定義や歴史については、棚田の論文「フォークソングという『歴史』(上)」(2006)³、同「(下)」(2007)⁴、「演歌の時代——日本フォークソング史試論——」(2008)⁵を参照していただきたいが、以下にフォークソングの歴史を概括しておく。

日本のフォークソング史は、1950年代のアメリカにおけるフォークソングムーブメントの影響を受け、それらのカバーをメインに歌う、1960年代の関東の大学生を中心とした若者たちの登場によって始まる。カレッジ・ポップスまたはカレッジ・フォークという。これらに飽き足らない若者たちが、反戦・反体制・反大人といった自分自身の思想や信条を自ら作詞作曲し歌う(自作自演)、若者独自の歌が関西を中心に登場する。それらを「関西フォーク」と呼ぶ。1960年代後半から70年代初めにかけての出来事である。次いで、フォークソング運動に影響を受けた若者たちが、自分たちの世代の歌としてフォークソングを意識し、フォークソング風の歌を歌い始める。ただ、これらが関西フォークと異なるのは、彼らは必ずしも反体制的な方向において歌おうとしたのではなく、むしろ個人の心情や生活を主な主題としていたことにある。私フォーク・四畳半フォーク・抒情派フォークなどとも呼ばれる。メジャーシーンでの活動を拒否しなかった彼らによって、フォークソングは一般的な市民権を獲得していく。1980年前後までの時代だと言ってよい。その後これらと時期を接しながらも、メッセージ性を重視してきたそれまでのフォークソングとは異なり、メロディに力点を置いた若者歌謡が登場する。それらは演歌ともアイドル歌謡曲とも違うものであり、あくまで若者の生活や心情を歌い込んだ楽曲であった。いわゆる「ニューミュージック」である。

以上がフォークソング史の概略だが、本稿では「関西フォーク」と、「それ

以降～ニューミュージック以前のフォークソング」(「一般フォーク」と呼ぶ)、の二つを対象とすることとした。前者に日本の歌謡曲史上の大きな転換点があることは明らかであり、それらの内に言語的な特徴を見出すことができるのではないかと考えたからである。後者は、一般にフォークソングと認識されている歌であり、現在においてフォークソングと言えば、こちらを指すことが多い。それらの歌詞分析も行うことで、上記2者の共通点と相違点を検討してみたい。歌の選定については、以下のような作業を行った。

- ① 棚田(2006・2007)で検討した15冊のフォーク本で採用冊数の多い順に、一人の歌手(グループを含む、以下同じ)に付き最大10曲までをピックアップする

*多くのフォーク本に採用されている歌ほど、世間において「フォークソング」と見なされているという判断による。

*井上陽水・吉田拓郎については、活動期間も長く、採用されている曲数も多いので、彼らの持つフォーク的な側面が長く愛唱されたものと見なし、20曲ずつ選定した。また、かぐや姫／南こうせつ、グレイプ／さだまさし、など、グループでも個人でも活動した場合は、それぞれ別にピックアップしてある。

- ② 上記の歌を、歌手別に「関西フォーク」「一般フォーク」の2つに分ける

*分類は棚田が「主観的」に行った。従って、個々の判断については異議があるかと思うが、活動時期・活動場所・交友圏・同時代の評価・本人の発言、などにより総合的に判断を下したものであり、一定の妥当性は持っているものと考えている。

*「一般フォーク」と「ニューミュージック」の区分も明確ではない。1970年代前半にデビューした歌手であっても、関西フォークの呪縛とでも言うべきものを持っていないフォークソングについては、ニューミュージックに分類した。ここでの分類は上記の分類より、さらに「主観的」であるという印象を持たれるものと思う。これらの分類の妥当性については、後掲する一覧によって検証していただきたいき、是非ご意見を頂きたい。

*フォークソングから、ガロ、チェリッシュ、トワ・エ・モア、ビリー・バンバンは外した。彼らはフォーク本では複数曲が複数の本に採用されている「フォークソング歌手」ではあるが、自作自演というフォークソングの基本には該当しないという判断による。

調査対象とした歌手名（グループを含む）を、「関西フォーク」「一般フォーク」別に以下に示す。なお、曲名については、論文末に一覧を掲げる。

【関西フォーク】

赤い鳥／あのねのね／泉谷しげる／五つの赤い風船／遠藤賢司／岡林信康／
加川良／加藤和彦／ジローズ／杉田二郎／高石友也／高田渡／ディランⅡ／
友部正人／中川五郎／なぎらけんいち／西岡恭蔵／西岡たかし／
はしだのりひこ／フォーク・クルセダーズ／フォーク・キャンパーズ／
ブレッド&バター

以上より、139曲

【一般的フォーク系】⁶

浅川マキ／井上陽水／イルカ／NSP／小椋佳／かぐや姫／風／グレープ／
さだまさし／ふきのとう／南こうせつ／山崎ハコ／吉田拓郎／りりィ

以上より、147曲

4 データの性質

前節で述べたように、関西フォークとして分類されたのは139曲であり、一般フォークとして分類されたのは147曲である。これらのすべての歌詞に対して形態素解析を施した。解析に使用したソフトは、奈良先端科学技術大学院大学の松本研究室で開発された日本語形態素解析システム「茶筌（ChaSen）」である。テキストファイルを「茶筌」で解析すると、すべての形態素にタグ（品詞名や活用形など）が付されて出てくるので、このタグを分析に利用した。

解析されて出てきたタグは全部で67種類であった。これらから「記号－アルファベット」「記号－一般」「記号－括弧開」「記号－括弧閉」「記号－句点」「記号－空白」「記号－読点」「（空白）」を除き、その残りのすべてのタグを語彙の形態素と文法的形態素に分類した。その対応関係は、表1に示すとおりである。

表1 語彙的形態素・文法的形態素と茶釜のタグの関係

	茶釜のタグ
語彙的 形態素	「形容詞－自立」「動詞－自立」「副詞－一般」「副詞－助詞類接続」「未知語」「名詞－サ変接続」「名詞－ナイ形容詞語幹」「名詞－一般」「名詞－形容動詞語幹」「名詞－固有名詞－一般」「名詞－固有名詞－人名－一般」「名詞－固有名詞－人名－姓」「名詞－固有名詞－人名－名」「名詞－固有名詞－組織」「名詞－固有名詞－地域－一般」「名詞－固有名詞－地域－国」「名詞－数」「名詞－代名詞－一般」「名詞－代名詞－縮約」「名詞－副詞可能」「連体詞」
文法的 形態素	「その他－間投」「フィラー」「感動詞」「形容詞－接尾」「形容詞－非自立」「助詞－格助詞－一般」「助詞－格助詞－引用」「助詞－格助詞－連語」「助詞－係助詞」「助詞－終助詞」「助詞－接続助詞」「助詞－特殊」「助詞－副詞化」「助詞－副助詞」「助詞－副助詞／並立助詞／終助詞」「助詞－並立助詞」「助詞－連体化」「助動詞」「接続詞」「接頭詞－数接続」「接頭詞－名詞接続」「動詞－接尾」「動詞－非自立」「名詞－接尾－サ変接続」「名詞－接尾－一般」「名詞－接尾－形容動詞語幹」「名詞－接尾－助数詞」「名詞－接尾－助動詞語幹」「名詞－接尾－人名」「名詞－接尾－地域」「名詞－接尾－特殊」「名詞－接尾－副詞可能」「名詞－動詞非自立的」「名詞－特殊－助動詞語幹」「名詞－非自立－一般」「名詞－非自立－形容動詞語幹」「名詞－非自立－助動詞語幹」「名詞－非自立－副詞可能」

関西フォークと一般フォークの全形態素数（延べ）と、その中の語彙的形態素数（述べ）と文法的形態素数（延べ）の内訳を示したものが、次の表2である。

表2 形態素数（延べ）の比較

	関西フォーク	一般フォーク
全形態素数（延べ）	22,712	24,025
語彙的形態素数（延べ）	11,076（49%）	11,690（49%）
文法的形態素数（延べ）	11,636（51%）	12,335（51%）

関西フォークと一般フォークのそれぞれに含まれている曲数が、139曲と147曲であるというように比較的近い数字であったためか、表2を見ると、関西フォークと一般フォークのそれぞれに含まれている全形態素数（延べ）もかなり近い数字であることがわかる。また、語彙的形態素数（延べ）と文法的形態素数（延べ）の出現数とその比率も、関西フォークと一般フォークの間でかなり近似した値となっている。

次に、関西フォークと一般フォークの全形態素数（異なり）と、その中の語彙的形態素数（異なり）と文法的形態素数（異なり）の内訳を示したものが、

表3である。

表3 形態素数（異なり）の比較

	関西フォーク	一般フォーク
全形態素数（異なり）	3,410	3,242
語彙的形態素数（異なり）	2,974（87%）	2,844（88%）
文法的形態素数（異なり）	436（13%）	398（12%）

表3においても、表2と同様、関西フォークと一般フォークの全形態素数（異なり）は近似しており、語彙的形態素数（異なり）と文法的形態素数（異なり）の出現数とその比率もよく似た値になっている。

次に、関西フォークと一般フォークにおける格助詞の出現数を比較する。それぞれの格助詞の出現数を示したものが、次の表4である。

表4 格助詞の出現数の比較

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
に	助詞－格助詞－一般	741	756
を	助詞－格助詞－一般	613	715
が	助詞－格助詞－一般	496	603
で	助詞－格助詞－一般	265	315
の	助詞－格助詞－一般	119	71
へ	助詞－格助詞－一般	72	91
と	助詞－格助詞－一般	76	60
から	助詞－格助詞－一般	46	77
より	助詞－格助詞－一般	6	26
ん	助詞－格助詞－一般	2	3
合計		2436	2717

表4を見ると、個々の格助詞の出現数も、格助詞の出現総数も、関西フォークと一般フォークで大きな違いがないことがわかる。

次の表5は、とりたて助詞「は」「も」及び助動詞「た」「だ」「です」「ます」「ない」の出現数を比較したものである。

表5 主なとりたて助詞・助動詞の比較

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
は	助詞－係助詞	882	852
も	助詞－係助詞	374	364
た	助動詞	658	733
だ	助動詞	611	531
です	助動詞	61	69
ます	助動詞	87	107
ない	助動詞	287	287

表5を見ればわかるように、とりたて助詞「は」「も」や助動詞「た」「だ」など、日本語の構造の根幹をなすと思われるような、格助詞以外の形態素についても、関西フォークと一般フォークの間には大きな違いは見られない。また、具体的な数値を示すことは省略するが、終助詞、接続助詞など、その他の助詞についても、関西フォークと一般フォークの間で大きな差は見られなかった。

以上、表2から表5で言えることは、関西フォークと一般フォークという2つのデータは、量的にも質的にも非常に似通ったものであるということである。次節及び次々節では、関西フォークと一般フォークの違いを、様々な形態素の出現数の違いから示していくが、その際、全形態素数を母数として出現比率の差を比較するというようなことはせず、出現数そのものを見比べて、両者の違いを述べていくことにする。

5 関西フォークのアンモナイト形態素

本節では、関西フォークのアンモナイト形態素、つまり、その形態素が出現していれば、その曲が関西フォークであるということがわかるような形態素の存在を指摘していく。結論を先に言えば、アンモナイト形態素の存在によって浮かび上がる関西フォークの特徴は、「話し言葉的・語りかけの」ということと、「社会性」ということの2点である。5－1では、「話し言葉的・語りかけの」という特徴に関係するアンモナイト形態素について述べ、5－2では、「社会性」という特徴に関係するアンモナイト形態素について述べる。

5－1 話し言葉的・語りかけの

本項では、「話し言葉的・語りかけの」とあるという関西フォークの特徴に
関係するアンモナイト形態素について述べる。まず、次の表6を見ていただ
きたい。

表6 関西フォークのアンモナイト形態素（1）

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
にゃ	助詞－特殊	22	4
私しゃ	名詞－代名詞－縮約	4	0

表6を見ると、「にゃ」は、関西フォークでは22回使用されているが、一般
フォークにおける使用は4回のみであることがわかる。また、「私しゃ」は、
一般フォークでの使用は0回である。したがって、「にゃ」「私しゃ」のいづれ
かが使用されていれば、そのフォークソングは関西フォークである可能性が非
常に高いと言える。ちなみに、次の(1)(2)が、「にゃ」「私しゃ」が使われている
歌詞の例である。

- (1) その日にゃ泣こうぜ うれし泣き 「山谷ブルース」(岡林信康)
- (2) そうよ 私しゃ 女で結構 女のくさったので かまいませんよ 「教
訓 I」(加川良)

「にゃ」「私しゃ」は、書き言葉では、まず使われることのない形態素であり、
したがって、関西フォークの「話し言葉的・語りかけの」という性質を端的に
表しているのではないかと考えられる。

次の表7は、「てしまう」の縮約形に関するものである。

表7 関西フォークのアンモナイト形態素（2）

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
じまう	動詞－非自立	15	1
ちゃう	動詞－非自立	11	3
ちまう	動詞－非自立	7	8
じゃう	動詞－非自立	0	1

表7を見ると、「てしまう」の縮約形である「じまう」「ちゃう」が、ほとん

ど関西フォークでしか使われていない形態素であることがわかる。これらも、話し言葉でしか使われない形態素であり、関西フォークの「話し言葉的・語りかけの」という性質を端的に表しているのではないかと考えられる。「じまう」「ちゃう」の実際の使用例は、以下のとおりである。

- (3) おらは死んじまっただ 「帰ってきたヨッパライ」(フォーク・クルセダーズ)
- (4) そしたら誰かが ぱっとお腹を切っちゃったって 「カレーライス」(遠藤賢司)

上記の(3)で、「おらは死んじまっただ」という歌詞の例を挙げたが、ここで使用されている「おら」という形態素も、関西フォーク独特のものである。次の表8を見ていただきたい。

表8 関西フォークのアンモナイト形態素(3)

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
おら	名詞-代名詞-一般	16	0
僕ら	名詞-代名詞-一般	8	0
あた	名詞-代名詞-一般	12	0
あたし	名詞-代名詞-一般	1	9

表8には、一人称代名詞の中で話し言葉的と思われる形態素が挙げられているが、「おら」「僕ら」「あた」が使用されていれば、その歌は関西フォークだということがわかる。この表を見ると、「あた」は関西フォーク的であり、「あたし」は一般フォーク的だということになる。次の(5)は「僕ら」が使用されている例であり、(6)は「あた」が使用されている例である。

- (5) 戦争が終わって 僕らは生まれた 「戦争を知らない子供たち」(ジロース)
- (6) 幸せってやつがあたいにわかるまで あたいたばこをやめないわ 「ブカプカ」(ディランⅡ)

次の表9は、母親の呼称に関するものである。

表9 関西フォークのアンモナイト形態素（4）

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
お母ちゃん	名詞－一般	14	0
母ちゃん	名詞－一般	6	1
お母さん	名詞－一般	1	0
母さん	名詞－一般	3	1
おふくろ／お袋	名詞－一般	4	4
母	名詞－一般	9	12
母親	名詞－一般	1	2
ママ	名詞－一般	1	1

表9を見ると、「お母ちゃん」と「母ちゃん」が関西フォークのアンモナイト形態素であることがわかる。「お母ちゃん」も「母ちゃん」もきわめて話し言葉的な形態素であるが、このどちらかが使われていると、その歌は関西フォークだということになる。次の(7)は「お母ちゃん」が使われている例であり、(8)は「母ちゃん」が使われている例である。

(7) うちのお母ちゃん 何処に行ってしもたのん 「チューリップのアップリケ」(岡林信康)

(8) 母ちゃんも俺を激励する 「受験生ブルース」(高石ともや)

なお、表9によれば、母親を「さん」付けで呼んでいる「お母さん」「母さん」については、関西フォークでも一般フォークでも使用例がほとんどないが、人名等に付加される接尾辞「さん」は、関西フォークのアンモナイト形態素だと言ってもよいようである。次の表10を見ると、「さん」の出現が関西フォークに偏っていることがわかる。

表10 関西フォークのアンモナイト形態素（5）

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
さん	名詞－接尾－人名	29	6

次の(9)は、接尾辞「さん」が使用されている例である。

(9) もしもし大工さん ほくの窓わくをはずして下さいな 「もしもし」(友

部正人)

以上が、「話し言葉的・語りかけの」という特徴を示す関西フォークのアンモナイト形態素である。具体的には、「縮約形」「一人称代名詞」「親族呼称」「人名等に付加される接尾辞」が、「話し言葉的・語りかけの」とであるという特徴を示すものとして観察された。

5-2 社会性

次に、「社会性」という関西フォークの特徴に関係するアンモナイト形態素について述べる。まず、次の表11を見ていただきたい。

表11 関西フォークのアンモナイト形態素（6）

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
戦争	名詞－サ変接続	30	0
自衛隊	名詞－固有名詞－組織	15	0
平和	名詞－形容動詞語幹	10	0

表11には、「戦争」「自衛隊」「平和」という戦争に関するとと思われる語が挙げられている。戦争というのは、個人的なことではなく、社会に関わることである。したがって、これらの語は、関西フォークの「社会性」という特徴と密接に関係するものであると思われるが、これらの語の出現は極端に関西フォークに偏っているため、これらの語が使用されていれば、その歌は関西フォークだと判断して問題ないようである。次の(10)～(12)は、「戦争」「自衛隊」「平和」が使用されている例である。

- (10) 戦争だ 戦争だ 戦争だ 待ちに待った戦争だ 「戦争小唄」(泉谷しげる)
- (11) みなさん方の中に自衛隊に入りたい人はいませんか 「自衛隊に入ろう」(高田渡)
- (12) 私達は今 平和をきずかなくては 「まるで洪水のように」(五つの赤い風船)

戦争から連想されるものに「死」があるが、次の表12は、「死」に関するアンモナイト形態素を集めたものである。

表12 関西フォークのアンモナイト形態素（7）

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
死ぬ	動詞－自立	59	14
命	名詞－一般	22	3
脳	名詞－一般	38	0
天国	名詞－一般	14	1
この世	名詞－一般	19	2

次の(13)～(17)は、「死ぬ」「命」「脳」「天国」「この世」が使用されている例である。

- (13) 死んだ男の残したものは 一人の妻と一人の子供 「死んだ男の残したものは」(高石ともや)
- (14) 短い命だったが まぼろしのつばさと共に 炎の中に消えてしまった 「まぼろしのツバサと共に」(五つの赤い風船)
- (15) 脳にきた 脳にきた 脳まででたよ 「おー脳」(泉谷しげる)
- (16) 天国よいとこ 一度はおいで 「帰ってきたヨッパライ」(フォーク・クルセダーズ)
- (17) 愛とあなたのために わたしは この世に生きているの 「愛とあなたのために」(ジローズ)

また、戦争は必ず外国との間で起こるものであるが、外国に関する形態素も、関西フォークに特徴的に見られるものである。次の表13を見ていただきたい。

表13 関西フォークのアンモナイト形態素（8）

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
アメリカ	名詞－固有名詞－地域－国	8	0
ベトナム	名詞－固有名詞－地域－国	2	0
ソ連	名詞－固有名詞－地域－国	1	0
中国	名詞－固有名詞－地域－国	1	0
フランス	名詞－固有名詞－地域－国	1	0
ドイツ	名詞－固有名詞－地域－国	1	0
オランダ	名詞－固有名詞－地域－国	1	0
ギリシャ	名詞－固有名詞－地域－国	1	0
日本	名詞－固有名詞－地域－国	7	3

表13を見ると、「日本」以外の国名が歌詞に出てきた場合は、その歌は必ず関西フォークであるということがわかる。次の(18)～(20)は、「アメリカ」「ベトナム」「ソ連」「中国」「フランス」「ドイツ」が使用されている例である。⁷

- (18) アメリカさんにも手伝ってもらい 悪いソ連や中国をやっつけましょう
「自衛隊に入ろう」(高田渡)
- (19) ベトナム特需の工員さん ノルマなんかほおりだせ 「おーいプレイボーイプレイガール」(フォーク・キャンパーズ)
- (20) フランスやドイツで戦って アメリカ軍は負けたことがない 「学校で何を習ったの」(高石ともや)

次の表14は、学校に関するアンモナイト形態素である。戦争も、関西フォークの特徴である「社会性」と密接に関係しているが、同様に、学校も「社会性」と密接に関係している。

表14 関西フォークのアンモナイト形態素(9)

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
学校	名詞ー一般	15	1
大学	名詞ー一般	7	0
大学生	名詞ー一般	4	0
習う	動詞ー一般	16	0

どの形態素も、一般フォークでの出現数は、ほぼゼロになっている。次の(21)～(23)は、表14で示された形態素が使用されている例である。

- (21) 学校で何を習ったの 可愛いおちびちゃん 「学校で何を習ったの」(高石ともや)
- (22) みんなが行くから 大学行くやつ 大学行くな 「おーいプレイボーイプレイガール」(フォーク・キャンパーズ)
- (23) どこがいいのか大学生 「受験生ブルース」(高石ともや)

ここまで、戦争と学校に関わる形態素を見てきたが、実際に歌詞の内容を見ると、ほとんどそのすべてが戦争や学校に疑問を投げかけているものである。要は、その当時の社会に不満があるわけなのであるが、そのためか、不満

のある社会からの脱出を望むような意味を持つと思われる形態素も存在する。
次の表15を見ていただきたい。

表15 関西フォークのアンモナイト形態素 (10)

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
望む	動詞－自立	22	0
飛ぶ	動詞－自立	17	7
打ちあげる	動詞－自立	10	0
鳥	名詞－一般	10	0
自由	名詞－形容動詞語幹／名詞－一般	30	5
丘	名詞－一般	14	0
高い	形容詞－自立	23	4

表15に挙げた形態素は、似た意味を持っているとはいにくいものではあるが、「不満ある社会からの脱出」ということでまとめようと思えば、まとめられなくもないものであるように思える。これらの形態素の出現も、関西フォークの特徴であると言っているのではないだろうか。次の(24)～(27)は、表14で示された形態素が使用されている例である。

- (24) 私たちの望むものは 私たちのための社会なのだ 「私たちの望むものは」(岡林信康)
- (25) 飛びゆく鳥よ 自由の使者よ 「イムジン河」(フォーク・クルセダーズ)
- (26) 落ちてきたら 今度はもっと 高く高く 打ちあげようよ 「紙風船」(赤い鳥)
- (27) 朝焼けの丘を越え 青年は 青年は荒野をめざす 「青年は荒野をめざす」(フォーク・クルセダーズ)

以上が、「社会性」という特徴を示す関西フォークのアンモナイト形態素である。「社会性」は「戦争」「学校」「不満ある社会からの脱出」というサブカテゴリーに分類することができた。主に名詞を中心とする語彙の形態素によって、「戦争」「学校」「不満ある社会からの脱出」という関西フォークの特徴が支えられていることが観察された。

6 一般フォークのアンモナイト形態素

本節では、一般フォークのアンモナイト形態素について述べる。アンモナイト形態素の存在によって浮かび上がる一般フォークの特徴は、「抒情的」であるということと、「私性」ということの2点である。関西フォークには「話し言葉的・語りかけの」「社会性」という2つの特徴があることを前節で述べたが、本節で述べる「抒情的」「私性」は、それぞれ「話し言葉的・語りかけの」「社会性」と対比されるべきものである。本節では、まず6-1で、「抒情的」であるという特徴に関係するアンモナイト形態素について述べ、続く6-2では、「私性」という特徴に関係するアンモナイト形態素について述べる。

6-1 抒情性

本項では、「抒情的」であるという一般フォークの特徴に関係するアンモナイト形態素について述べる。まず、次の表16を見ていただきたい。

表16 一般フォークのアンモナイト形態素（1）

感動詞	タグ	関西フォーク	一般フォーク
ああ	感動詞	11	42

表16に挙げられている形態素は感動詞「ああ」である。関西フォークにおける出現数も少なくはないのだが、感動詞「ああ」が使用されていると、その歌は一般フォークである可能性が高いことがわかる。次の(28)は、「ああ」の使用例である。

- (28) 喫茶店に彼女とふたりで入ってコーヒーを注文すること ああ それが青春 「青春の詩」(吉田拓郎)

(28)では、「ああ」を使用しなくても、聴き手に伝わる事柄的な意味はまったく変化しない。「ああ」の使用によって聴き手に伝わることは、歌い手の感情の込め方、つまり、抒情的な意味であると思われる。

次の表17は、「移ろい」や「はかなさ」という印象を聴き手に与えやすいと思われるアンモナイト形態素を集めたものである。表17に挙げた形態素も、一般フォークが「抒情的」であるということと関係があるのではないと思われる。

る。

表17 一般フォークのアンモナイト形態素（2）

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
めぐる	動詞－自立	0	14
過ぎる	動詞－自立	0	12
揺れる	動詞－自立	2	14
去る	動詞－自立	2	12
流れる	動詞－自立	3	16
消える	動詞－自立	12	32

表17の動詞は、いずれも「安定している」「しっかりしている」「動かない」などとはまるで反対の意味を有するものである。また、いずれも一人称主語をとりにくい動詞であるので、周囲を観察者的に眺めることによってしか気づくことのできない「動き」であるとも言える。表17の各形態素が持つこのような特徴が、「抒情的」という意味合いにつながっているのではないと思われる。次の(29)～(33)は、表17に挙げた形態素の使用例である。

- (29) めぐる暦は季節の中で ただよいながら過ぎてゆく 「無縁坂」(グレープ)
- (30) 不思議な揺れるまなざし 心を一人占めにして 「揺れるまなざし」(小椋佳)
- (31) 君が去ったホームにのこり 「なごり雪」(イルカ)
- (32) 時がいつか流れても 「Bye Bye」(風)
- (33) 流れ星 願いごと 消えないうちに早く 「闇夜の国から」(井上陽水)

次の表18は、季節に関する形態素を集めたものである。

表18 一般フォークのアンモナイト形態素（3）

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
春	名詞－副詞可能	10	31
夏	名詞－副詞可能	10	22
秋	名詞－副詞可能	9	14
冬	名詞－副詞可能	5	32
桜	名詞－一般	0	12
花火	名詞－一般	2	30
雪	名詞－一般	7	19
雨	名詞－一般	15	70

「秋」に関しては、関西フォークと一般フォークの出現数にあまり差は見られないが、「春」「夏」は一般フォークの方が出現数が多く、その差が最も顕著なのが「冬」である。「冬」という形態素が使われていれば、その歌は関西フォークではなく、一般フォークである可能性がかなり高いと言える。また、それぞれの季節の風物を表すような「桜」「花火」「雪」「雨」の出現数は、一般フォークの方が際立って多い。季節の情景に目を向け、それを歌に織り込むということは、まさに抒情的であるという一般フォークの特徴を示すものである。次の(34)～(40)は、表18に挙げた形態素の使用例である。

- (34) もう春なんか来やしない 来やしない 「ふしあわせという名の猫」(浅川マキ)
- (35) 秋だと云うのに街は いまだ夏のかおりを残しているから 「トパーズ色の街」(風)
- (36) 冬の朝 目覚めたときのあと五分の幸せを誰もが知ってる 「そんな暮らしの中で」(風)
- (37) 花びらが散ったあとの 桜がとても冷たくされるように 「ささやかなこの人生」(風)
- (38) 花火の季節はもう過ぎて 誰も見向きはしないのね 「冬の花火はおもいで花火」(NSP)
- (39) 窓の外は雨 あの日と同じ 「雨の物語」(イルカ)
- (40) 雪が降るよ やまずに昨日から 昨日から 「雪が降る日に」(かぐや姫)

次の表19は、乗り物に関する形態素を挙げたものである。

表19 一般フォークのアンモナイト形態素（4）

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
船／舟	名詞－一般	3	41
汽車	名詞－一般	3	23
夜汽車	名詞－一般	12	1

表19を見ると、「船／舟」「汽車」は、なぜか一般フォークに顕著に多いことがわかる。しかし、船も汽車も決して日常的な乗り物であるとは言えない。一般フォークは、その題材として、基本的に日常の事柄を扱っている。日常の事柄を扱う中に非日常的な乗り物が入ってくることにより、人と少し違った感性のようなものが、つまり抒情性のようなものが表れてくるのではないだろうか。なお、「汽車」は主に一般フォークで使われているのだが、「夜汽車」は主に関西フォークで使われている。次の(41)(42)は、「船」と「汽車」の使用例である。

- (41) あなたが船を選んだのは 私への思いやりだったのでしょうか 「海岸通」(イルカ)
- (42) 汽車を待つ君の横で僕は 時計を気にしてる 「なごり雪」(イルカ)

次の表20は、一日の時間帯に関するものである。

表20 一般フォークのアンモナイト形態素（5）

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
夕暮れ	名詞－副詞可能	1	11
今夜	名詞－副詞可能	6	22
夜明け	名詞－一般	14	3
朝	名詞－副詞可能	15	3

表20を見ると、「夕暮れ」「今夜」は一般フォークに多く、「夜明け」「朝」は関西フォークに多いことがわかる。「夜明け」「朝」は「希望」や「始まり」の象徴であり、その時間帯に「未練」を残したり「余韻」に浸ったりということはあまりないように思われる。一方、「夕暮れ」「今夜」には、その時間帯がいつまでも続いてほしいような「未練」や「余韻」が感じられるのではないだろう

うか。「夕暮れ」「今夜」と「夜明け」「朝」を比べると、やはり「夕暮れ」「今夜」の方が抒情的であると言えるのではないか。次の(43)(44)は、「夕暮れ」と「今夜」の使用例である。

- (43) 田舎の堤防 夕暮れ時に ぼんやりベンチにすわるのか 「夕暮れ時はさびしそう」(NSP)
- (44) 二人でこさえたおそろいの 浴衣も今夜は一人で着ます 「精霊流し」(グレープ)

以上が、「抒情的」という特徴を示す一般フォークのアンモナイト形態素である。具体的には、「感動詞」「移ろいやはかなさを暗示する動詞」「季節に関する名詞」「乗り物に関する名詞」「時間帯に関する名詞」が、「抒情的」とあるという特徴を示すものとして観察された。

6-2 私性

本項では、「私性」という一般フォークの特徴に関係するアンモナイト形態素について述べる。「私性」の中心をなすのは「恋の感情を語る」ということである。まず、次の表21を見ていただきたい。

表21 一般フォークのアンモナイト形態素(6)

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
愛す／愛する	動詞-自立	4	33
抱く／抱きしめる	動詞-自立	5	22

表21を見ると、「愛す／愛する」「抱く／抱きしめる」という、恋愛の象徴とも言える動詞が、一般フォークに偏って出現していることがわかる。一般フォークでは、まさに「恋の感情を語る」ということが行なわれているのではないだろうか。次の(45)(46)は、「愛する」と「抱きしめる」の使用例である。

- (45) 忘れてくれるな 俺の愛する女は 愛する女は 生涯お前ただ一人
「閨白宣言」(さだまさし)
- (46) ララ 夏の少女よ 強く抱きしめて 「夏の少女」(南こうせつ)

ただし、恋や愛については、関西フォークでも歌われていないわけではない

ということには注意が必要である。次の表22を見ていただきたい。

表22 「愛」「恋」の出現数の比較

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
愛	名詞－一般	36	21
恋	名詞－一般	49	21

表22を見ると、「愛」「恋」という名詞は、むしろ関西フォークに多く出現していることがわかる。しかし、表21で見たように、「愛す／愛する」という動詞の出現は、一般フォークの方が圧倒的に多い。それは、なぜなのであろうか。

「愛す／愛する」という動詞は、ガ格名詞とヲ格名詞を必須補語としてとり、「(主体) ガ (対象) ヲ 愛す／愛する」という構文の中で使用されるのが普通である。したがって、「愛す／愛する」という動詞を歌詞の中で使うと、必然的に「誰を愛しているのか」という個人的な感情について述べることになる。一方、「愛」「恋」という名詞には、このような用法上の制約がないので、個人的な感情に言及することなく、「愛とは素晴らしいものだ」などというように、「愛」そのものや「恋」そのものについて述べるができる。つまり、「愛」や「恋」を題材として取り上げることは関西フォークでも行なわれているが、一般フォークでは、「愛」や「恋」を題材として取り上げるだけでなく、「誰を愛しているのか」という個人的な感情にまで言及しているということである。このことは、まさに「私性」という一般フォークの特徴を表しているのではないだろうか。

次の表23は、人称代名詞に関するものである。

表23 一般フォークのアンモナイト形態素（7）

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
あなた／貴方	名詞－代名詞－一般	41	171
彼	名詞－代名詞－一般	25	5

表23を見ると、「あなた／貴方」の出現が一般フォークに偏っていることがわかる。「あなた」は、英語の「you」とは異なり、二人称代名詞としての用法に大きな制約がある。「あなた」という人称代名詞を使用できるのは、夫婦の間か、もしくは恋人に対してであるか、あるいは、名前のわからない目下の相手に対してである。したがって、一般フォークで「あなた／貴方」が多用され

ているということは、夫婦間の呼びかけか、もしくは恋人に対する呼びかけか、あるいは、名前のわからない目下の相手への呼びかけかが頻繁に行なわれているということであるが、その歌詞を見れば、ほとんどが恋人に対する呼びかけであることがわかる。このことは、「恋の感情を語る」ということと、また、「私性」ということと密接に関係しているのではないと思われる。次の(47)は、「貴方」の使用例である。

(47) ただ貴方のやさしさが 怖かった 「神田川」(かぐや姫)

ところで、表23を見ればわかるように、関西フォークでは「彼」の出現が際立っている。一人称代名詞に関する関西フォークの特徴については前節でも述べたが、三人称代名詞「彼」の出現の多さも関西フォークの特徴である。「彼」は、「私の彼は左きき」のように、三人称代名詞としてではなく「恋人・ボーイフレンド」という意味で使われることがあるが、歌詞を調べてみると、関西フォークにおける「彼」が「恋人・ボーイフレンド」を指していることはほとんどない。やはり、「恋の感情を語る」という特徴は、関西フォークには見られにくいもののようである。

次の表24は、「恋の感情を語る」ということと関係のありそうな形態素を集めたものである。

表24 一般フォークのアンモナイト形態素(8)

形態素	タグ	関西フォーク	一般フォーク
笑う	動詞－自立	9	45
笑顔	名詞－一般	2	11
さみしい／さびしい／淋しい／寂しい	形容詞－自立	11	54
手紙	名詞－一般	3	19
さよなら／さようなら	感動詞	8	31
捨てる	動詞－自立	1	16
約束	名詞－サ変接続	1	11
ふたり	名詞－一般	3	19
青春	名詞－一般	6	29

表24に挙げた形態素は、「恋の感情を語る」こと以外でも使用されることが

あるわけであるが、いずれの形態素も、その出現は一般フォークに偏っている。次の(48)～(54)は、表24に挙げた形態素の使用例である。

- (48) すいませんねと笑うあなたの笑顔 とても凜凜しくて 「雨やどり」(さだまさし)
- (49) さみしさのつれづれに 手紙をしたためています あなたに 「心もよう」(井上陽水)
- (50) あなたに「さよなら」って言えるのは今日だけ 「22才の別れ」(風)
- (51) 思い出クルクルまるめて捨てた 荻窪二丁目 裏通り 「荻窪二丁目」(南こうせつ)
- (52) 約束どおり 町の教会で 結婚しようよ 「結婚しようよ」(吉田拓郎)
- (53) あのころふたりの アパートは 裸電球 まぶしくて 「赤ちょうちん」(かぐや姫)
- (54) 君と歩いた青春が幕を閉じた 「君と歩いた青春」(風)

以上が、「私性」という特徴を示す一般フォークのアンモナイト形態素である。「私性」の中心をなすのは「恋の感情を語る」ということであつた。「恋に関する動詞」「二人称代名詞」「恋に関する語彙の形態素」によって、「恋の感情を語る」という一般フォークの特徴が支えられていることが観察された。

7 まとめ

5節6節に示された数値は、全形態素数に比して、いずれも大きな数値ではない。歌には何度も繰り返し歌われる「サビ」と呼ばれる箇所があり、サビに含まれる語は必然的に数が多くなる。従って必ずしも数値の大きさがそのまま曲数の多さを意味するわけではない。そうした事柄を勘案した上で、しかし、これまでの分析結果は興味深いものである。その第一は関西フォークと一般フォークでほぼ同じ曲数を対象としているにも拘わらず、一方がほぼ0であるケースが存在することである。両者共にフォークソングと呼ばれていながら、ある要素が一方にしか見られないということは、見かけの数値以上に大きな差異があることを示唆すると考えられる。言いかえれば、一般フォークが関西フォークの何を排除し、何を新たに生み出したのかが見えてくるということである。第二に、それぞれのフォーク分析において比較的大きな数値を示す語を纏めて一つの語群として眺めてみることで、新たな物語が浮かび上がってくる

ということである。例えば、「酒・泪・別れ・女・旅・雨」といった語が使われていれば演歌になるといった指摘があるが、「表15」によって例えば「自由を望む僕らは鳥のように高く飛ぶ」という詩句を作ってみれば、関西フォークの一節になるということである。こうした事柄に着目しながら、これまでの結果に対するまとめをしておきたい。

フォークソング史の概説のところで述べたように、フォークソングは若者の信条・心情を同時代の若者に向かって歌ったものである。関西フォークは特に「メッセージフォーク（メッセージソング）」と呼ばれるものでもある。「5-1」はそうした関西フォークの特徴を如実に物語っていると言える。その内容は「5-2」に示されたように、社会性の強いものであった。しかもそこに登場する「社会」は、「表11~13」に示されているように、例えば日米安保闘争やベトナム戦争という時代背景と密接に結びつくものであり、当時の若者たちがこれらを強く意識していたことを物語っている。さらに「表14」を重ねれば、自らの場所で自らの時代を歌うという、自分たちの「日常」を歌っていたということが出来る。決して「歌の上だけの話」ではないリアリズムが、関西フォークの中にはあった。同時代の若者たちの支持が集まった理由も、ここにあると想像される。

「6-2」で一般フォークにおける「私性」について述べられているが、連帯を呼びかける歌が関西フォークだとするならば、自己の内部に沈潜し、個人の生活をこそ大事にするのが一般フォークだと言える。井上陽水が「傘がない」で歌っている、「自殺する若者が増えている」ことよりも「君に逢いに行」くための「傘がない」ことをこそ、最重要課題とする若者たちの登場が、関西フォークから一般フォークへの転換点であった。一般フォークを私フォーク・四畳半フォークと呼ぶのは正しいのである。そうして、これらの変遷は、例えば戦後文学において、第一次戦後派・第二次戦後派と呼ばれる文学者たちが、政治性や社会性において自らの思想を表現したのに対し、その後の第三の新人・内向の世代と呼ばれる文学者たちが、社会よりは自らの内部の問題に沈潜していくという歴史を持っていることとパラレルであると言ってよい。社会を問題にし、変革を目指した若者たちは、いずれも「挫折」するということなのだろうか？ただ「表15」で指摘されている「不満ある社会からの脱出」という要素が、単なる脱出ではなく、社会変革の方向へ、つまり明るく希望に満ちた方向へと向かうものであることは注目されて良い。関西フォークにおいて若者たちは、連帯を信じ、自らの若さを信じて、未来の変革を夢見たのである。

一方で、若さとはいずれ過ぎ去るものだという感覚がつきまとっていた。

フォークソングの中には「今」を歌うのではなく、過ぎ去った青春時代を悔いと共に回顧するというパターンがしばしば見られる。若者たちは、青春時代はいずれ終わりを告げ、「大人」として社会に取り込まれていくのだということを意識せざるを得なかった。これは関西フォークにおいてすでに見られる要素だが、「表17・18」に見られるように、特に一般フォークにおいて、過ぎ去る時間という感覚は顕著であると言える。さらにこれに「表20・24」を重ね合わせれば、一般フォークにおける「抒情」が、ノスタルジーに似た、過ぎ去ったもの失われたものに対する悲しみの感情であることが分かる。関西フォークで力強く連帯を歌った若者たちは、一般フォークにおいては「すでに老いて」いたのである。1970年代後半には「無気力・無責任・無関心」の「三無主義」が若者に共通する要素であるという指摘がなされた。政治闘争の時代に疲れた若者たちは、社会に背を向けて、個人の生活に沈んでいこうとする。「6-2」の私性とはそのように理解されるべきものであろう。ただ同時にそこで見出された「私」は積極的に守られるべきものでもあった。「表21・22」の結果は一見矛盾しているように見えるが、実はそうではない。関西フォークが「大きな愛」を歌ったのに対し、一般フォークは「個人の愛」を歌っていることを、この結果は物語っている。社会的な愛、人類愛ではなく、「貴方を愛する」ことこそが、世界の全てであると言っているのである。ところで、「セカイ系」という言葉がある。「あなたーわたし」という二人だけの世界が、直接世界全体の問題（例えば地球の存亡）などと結びついてしまうという、現代のサブカル文化における物語の一つの構造を表す用語だが、一般フォークはこれに似て、非なるものである。社会変革の運動に疲れた若者たちは、社会に対するアンチテーゼとして、「あなたーわたし」という極めて個人的な関係を「世界」として措定したのである。そこには世界全体と結びつく大きな虚構の物語は存在しない。「貴方を愛する」という小さな物語に自らの青春の真実を賭けたのである。先に関西フォークが若者のリアルな歌であると述べたが、自己の心情と現実とに即しているという点において、リアリティは一般フォークにおいても保持されているのである。いやむしろ、こうしたリアルであることに対する拘りこそが、フォークソングの本質であると言うべきかもしれない。

これまで述べてきた事は、すでに個別の歌詞分析や、直感的・経験的に指摘されてきた事柄とあまり違わない。しかし、本稿における機械的な言語分析が、従来の指摘の正当性を支持する一つの要素たりうるならば、フォークソングは歌詞における物語性においてだけでなく、語のレベルにおいて（単に名詞にとどまらない）も、その独自性を生み出し得た新たな歌であったということがで

きるのである。

さらに、今回の結果に、ニューミュージック・演歌・アイドル歌謡・J-POPなどを比較対象としたときに、どのような結果が見られるのか／見られないのか。例えば「4」における解析結果、つまり形態素数が関西フォーク・一般フォークにおいて、語彙的にも文法的にも、その異なりまで含めてほぼ同じであるという結果は、興味深い。これらの結果は、フォークソングだけの傾向であるのか、あるいは、ポップス系の歌謡曲、さらには演歌にいたるまでの歌謡曲全てについても同じような数値になるのか／ならないのか、こうした問題一つを取り上げても、検討すべき課題はまだまだあるのである。

注

- 1 本稿は、棚田・山内の十分な議論の上に作成されたものであり、内容については両者がともに責任を負うものである。ただし、執筆に際しては、第1節～第3節、第7節を棚田が担当し、第4節～第6節を山内が担当した。
- 2 『プロフィクションシーから見た日本語教育文法』2009.4 ひつじ書房
- 3 『実践國文學』69号 2006.3.15 実践国文学会
- 4 同上 72号 2007.10.15 同上
- 5 同上 73号 2008.3.15 同上
- 6 ニューミュージックに属すると判断し、本稿での検討対象としなかった、主な歌手名を記しておく。
アリス／五輪真弓／オフコース／海援隊／甲斐バンド／中島みゆき／長渕剛／松任谷（荒井）由美／松山千春
- 7 「オランダ」と「ギリシャ」は、それぞれ「オランダ坂」「ギリシャ時代」という語の造語成分として使用されていた。ここでは、歌詞の紹介は省略する。

調査対象曲リスト

- * 歌手名（アイウエオ順）毎に、曲名、発表年を記している。（発表年のないものは発表年不明）
- * 「自作自演」を基本としている歌手のみを取り上げているが、その歌手が自作以外の詞を歌っている歌も一部含んでいる。

【関西フォーク】

赤い鳥：赤い花 白い花（1970）／竹田の子守唄（1970）／翼を下さい（1970）／美しくも哀しい人生（1971）／河（1971）／言葉にならない言葉（1971）／忘れていた朝（1971）／赤い屋根の家（1972）／紙風船（1972）／風は旅

人 (1973)

あのねのね：赤とんぼの唄 (1973) / 魚屋のおっさんの歌 (1973) / 雪が降っています (1974)

泉谷しげる：白雪姫の毒リンゴ (1971) / 戦争小唄 (1971) / 春夏秋冬 (1972) / 春のからっ風 (1973) / 眠れない夜 (1974) / 家族 (1976) / 野良犬 (1976) / おー脳 / 国旗はためく下に / 人生をこえて

五つの赤い風船：恋は風にのって (1968) / 血まみれの鳩 (1968) / 貝殻節 (1969) / 遠い世界に (1969) / まぼろしのツバサと共に (1969) / まるで洪水のように (1969) / これがボクらの道なのか (1970) / 時は変ってしまった (1970) / えんだん (1972) / 花と空に… (1975)

遠藤賢司：本当だよ (1969) / 雨あがりのビル街 (僕は待ちすぎてとても疲れてしまった) (1970) / 満足できるかな (1970) / 夜汽車のブルース (1970) / カレーライス (1971) / 待ちすぎた僕はとても疲れてしまった (1971) / いつの間にか雨が (1972) / 嘆きのウクレレ (1972) / ねえちょっとそこ行ってお嬢さん (1972) / 遠い汽笛 (1975)

岡林信康：ガイコツの唄 (1968) / クソクラエ節 (1968) / 山谷ブルース (1968) / チューリップのアップリケ (1968) / 手紙 (1968) / 友よ (1968) / 今日をこえて (1969) / それで自由になったのかい (1969) / 私たちの望むものは (1970) / 俺らいちぬけた (1971)

加川良：教訓 I (1971) / ゼニの効用力について (1971) / 戦争しましょう (1971) / その朝 (1971) / 伝道 (1971) / 求めます (1971) / 偶成 (1972) / 親愛なる Q に捧ぐ (1972) / 流行歌 (1973) / 下宿屋

加藤和彦：僕のそばにおいでよ (1964) / 僕のおもちゃ箱 (1969) / アーサー博士の人力ヒコーキ (1971) / 家をつくるなら (1971) / 不思議な日 (1971) / 魔法にかかった朝 (1971)

加藤和彦と北山修：あの素晴らしい愛をもう一度 (1971)

ジローズ：あなただけに (1968) / 戦争を知らない子供たち (1970) / 愛とあなたのために (1971) / 青春の別れ道 (1971)

杉田二郎：人力ヒコーキのバラード (1972) / 男どうし (1975) / 君住む街 (1976) / ANAK (息子) (1978)

高石ともや：死んだ男の残したものは / 春を待つ少女 / 学校で何を習ったの (1967) / チューインガム一つ (1967) / 思い出の赤いヤッケ (1968) / 主婦 (かあちゃん) のブルース (1968) / 受験生ブルース (1968) /

高石ともや&ザ・ナターシャ・セブン：私に人生と言えるものがあるなら（1969）

／陽気に行こう（1970）

高石友也・マイケルズ：坊や大きくならないで（1968）

高田渡：自衛隊に入ろう（1969）／アイスクリーム（1971）／自転車に乗って
（1971）／しらみの旅（1971）／生活の柄（がら）（1971）／銭がなけりゃ
（1971）／夕焼け（1971）／系図／値上げ／ミミズ

ディランⅡ：ブカブカ（1971）／ガムをかんで（1972）／僕の街（1972）／悲しみの
セールスマン（1974）／追放の唄（1974）

友部正人：大阪へやって来た（1970）／もしもし（1971）／一本道（1972）／長崎慕
情（1972）／にんじん（1972）／ふーさん（1972）／密漁の夜（1973）

中川五郎：殺し屋ブルース／うた／25年目のおっばい（1975）

なぎらけんいち：万年床（1972）／悲惨な戦い（1973）／葛飾にバッタを見た
（1974）

西岡恭蔵：街行き村行き（1974）／あこがれのニューオルリンズ

西岡たかし：風が何かを……（1971）／そんな気が……（1971）／そんなに愛が
欲しいのなら（1971）／満員の本（1972）／君がやって来る（1976）
／木枯 えれじい（1976）

はしだのりひことクライマックス：花嫁（1971）

はしだのりひことシューベルツ：さすらい人の子守唄（1969）／風（1968）

フォーク・キャンパーズ：おーいプレイボーイプレイガール

フォーク・クルセダーズ：帰ってきたヨッパライ（1967）／さすらいのヨッパライ
（1968）／ドラキュラの恋（1968）／何のために（1968）
／水虫の唄（1968）／イムジン河（1968）／悲しくてや
りきれない（1968）／青年は荒野をめざす（1968）／戦
争は知らない（1968）／花のかおりに（1968）

ブレッド&バター：野生の馬（1971）

【一般フォーク】

浅川マキ：かもめ（1969）／ちっちゃな時から（1969）／夜が明けたら（1969）／赤
い橋（1970）／ふしあわせという名の猫（1970）／あたしが娼婦になっ
たなら（1971）／港の彼岸花（1971）／あの娘がくれたブルース
（1972）／こんな風に過ぎて行くのなら（1972）／裏窓（1973）

井上陽水：心もよう（1972）／限らない欲望（1972）／紙飛行機（1972）／人生が二
度あれば（1972）／断絶（1972）／夏まつり（1972）／東へ西へ（1972）

／夢の中へ (1972) ／白い一日 (1973) ／帰れない二人 (1973) ／傘がない (1973) ／氷の世界 (1973) ／闇夜の国から (1973) ／夕立 (1974) ／Happy Birthday (1974) ／青空、ひとりきり (1976) ／Good, Good-Bye (1976) ／青い闇の警告 (1978) ／ミス コンテスト (1978) ／あかずの踏切

イルカ：あの頃のぼくは (1974) ／君は悲しみの (1974) ／なごり雪 (1974) ／海岸通 (1975) ／片想いの少女へ (1976) ／サラダの国から来た娘 (1976) ／雨の物語 (1977) ／植物誌 (1977)

NSP：さようなら (1973) ／雨は似合わない (1974) ／夕暮れ時はさびしそう (1974) ／ゆうやけ (1975) ／さくら草 (雪どけ水は冷たくて) (1975) ／線香花火 (1976) ／北北東の風 (1977) ／弥生つめたい風 (1977) ／八十八夜 (1978) ／冬の花火はおもいで花火 (1978)

小椋佳：さらば青春 (1971) ／少しは私に愛を下さい (1971) ／しおさいの詩 (1973) ／残された憧憬 (1973) ／春の雨はやさしいはずなのに (1973) ／この汽車は (1973) ／めまい (1975) ／傾いた道しるべ (1975) ／揺れるまなざし (1976) ／忍ぶ草 (1978)

かぐや姫：あの人の手紙 (1972) ／加茂の流れに／マキシシーのために (1972) ／雪が降る日に (1972) ／アビーロードの街 (1973) ／神田川 (1973) ／僕の胸でおやすみ (1973) ／赤ちょうちん (1974) ／妹 (1974) ／置手紙 (1974)

風：22才の別れ (1974) ／あの唄はもう唄わないのですか (1975) ／君と歩いた青春 (1976) ／ささやかなこの人生 (1976) ／海風 (1977) ／そんな暮らしの中で (1977) ／トパーズ色の街 (1977) ／ほおずえをつく女 (1977) ／夜汽車は南へ (1977) ／Bye Bye (1978)

グレープ：精霊流し (1974) ／追伸 (1974) ／朝刊 (1975) ／ほおづき (1975) ／無縁坂 (1975) ／縁切寺 (1975)

さだまさし：雨やどり (1977) ／案山子 (1977) ／吸殻の風景 (1977) ／桃花源 (1977) ／飛梅 (1977) ／主人公 (1978) ／檸檬 (1978) ／関白宣言 (1979) ／道化師のソネット (1980)

ふきのとう：白い冬 (1974) ／初夏 (1975) ／街はひたすら (1975) ／南風の頃 (1975) ／風の船 (1976) ／風来坊 (1977) ／流星ワルツ (1977) ／影法師 (1978) ／春雷 (1979) ／やさしさとして思い出として (1979)

南こうせつ：萩窪二丁目 (1975) ／旅するあなた (1975) ／花一文目 (1975) ／今日は雨 (1976) ／愛する人へ (1977) ／夏の少女 (1977) ／夢一夜

(1978)／れくいえむ (1979)

山崎ハコ：かざぐるま (1975)／橋向こうの家 (1975)／望郷 (1975)／気分をかえて (1976)／白い花 (1976)／藍色の詩 (1977)／あの海に (1977)／水割り (1977)／ヨコハマ (1978)／クレイジーラブ

吉田拓郎：青春の詩 (1970)／マークⅡ (1970)／イメージの詩 (1971)／今日まで
そして明日から (1971)／結婚しようよ (1971)／夏休み (1971)／ある雨の日の情景 (1972)／おきざりにした悲しみは (1972)／せんこう
花火 (1972)／旅の宿 (1972)／どうしてこんなに悲しいんだろう
(1972)／人間なんて (1972)／春だったね (1972)／祭りのあと
(1972)／伽草子 (1973)／落陽 (1973)／人生を語らず (1974)／ペニ
ーレーンでバーボンを (1974)／となりの町のお嬢さん (1975)／明日
に向って走れ (1976)

リリィ：クイズの賞金 (1972)／ジュン (1972)／心が痛い (1973)／風のいたみ
(1974)／私は泣いています (1974)／オレンジ村から春へ (1976)

(たなだ　てるよし・実践女子大学教授
やまうち　ひろゆき・実践女子大学教授)